明治廿八年五月一日印刷
明治廿八年五月三日發行

婦人衛生雜誌

第六十六號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生雜誌
第六拾六號
目次

講演

◉學齡兒に就ての衛生談　醫學博士　長田弘君
◉生理學講義　醫學士　坪井次郎君

衛生叢談

◉傳染病研究所の參觀
◉虎列刺豫防の告示
◉澎湖島虎病の原因
◉虎列刺病に對する注意
◉大日本婦人衛生會景況
◉同會懇親會景況
◉廣告數件

大日本婦人衛生雜誌
第六拾五號
目次

講演

◉看護に就て　醫學士　中根正次君
◉浴湯の話　宮本仲君
◉首下り病取調報告

衛生叢談

◉雜件數件
◉大日本婦人衛生會總會
廣告數件

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌第六拾六號
(明治二十八年五月三日發行)

講演

●學齡兒に就ての衛生談

(七月七日於富士見倶樂部開婦人衛生會例會)

醫學博士 弘田長君演説
大澤豊子速記

私は今日此會に伺ふ筈では有りませんので御座いました。又實際伺へぬので有りましたが、高山君が病氣に罹られて出席が出來ませぬ爲めに段々と御出席になります方の手都合の狂はれたため、是非出席して呉れと云ふ事を丹波君から申込まれまして、度々辭しましたが、達てと云ふ御話で有りましたから、伺ひましたので御座いますが、事情サウ云ふ樣な譯で有りますから、何も申上げます樣な考案も出來て居りませぬので、甚だ申上げますのも御恥かしいやうな事を、極く簡單に申述べて、御免を蒙る考へで有りますから、何卒詰らぬ事では有りますけれども、暫く御聽取りを願ひます若し御參考の萬分の一にもなりますやうな事が有りますれば、私の至幸で有ります。今日申上げ樣と思ひますのは、私が大學に於て診察を致して居りまする病兒の中には一種の病兒が間々ありまして其病氣たるや、御兩親の方では大へん養生等に御注意なすッて居られました者の樣でしたが其結果却て方法の宜しくなかつたため、發病したものと考へられますから、是を今日の材料と致し御參考までに此事に就て極く簡單に申上げる考へ

で御座います。

ソレは極く小さい御子樣の衛生談では有りませぬ、是れまで小さい赤兒から、誕生、二誕生位ゐまでの御子樣方の衛生に就きましては、諸家の演説も澤山に有りまして、或は奥樣方の方が、餘程其邊の事は委しく御承知になッて居らるゝと考へますから、私はソレよりも歳を取ッた學齡の六歳七歳位ゐの子供に就て申上げる考へで有ります。御承知の通り小兒が六歳、或は七歳の年齡に達しますると云ふと、小學校に入學を致さなければならぬ樣な規則になつて居る、其小學に入りますには、當時病に罹ッて居る子供で有りますれば、或は時期を延ばしまして學校に通ふと云ふ事になるのでありますが、其病氣に罹ッて居らぬ子供なれば、大概其子供は幼稚園から繰り上げて尋常小學にゐるので有ります。然るに六七歳の子供と云ふものは、強弱甚だ不同で有りまして、非常に強壯の子供も有りますれば、一体に身體の虚弱なる子供も有りますから、一樣に病氣で無い以上は、譬へ弱い子供でも悉く學校に入れると云ふ事は多少御注意にならなければならぬ点で有らうと思ひます、兎に角現今の有樣は、子供が六七歳になりますると、病氣で無い限りは、大概皆入學させて仕舞ふので有ります。何處の御子樣でも大概サウなッて居ると思ひます。處が學校に這入りまするど云ふと子供の生活と云ふものは、非常に一變を致しまして、身体に大變動を致すことになります。學校に這入る前は、ドウ云ふ工合かと云ふに、遊びに往きたい時は何時でも往き、御母樣の傍に往きたければ何時でも往き、又眠むければ勝手に横臥し

て眠る事も出來まするし、書が見たい時は書を觀まして、又いやになれば、外の遊びに換へると云ふやうに、自由自在の生活をして居ッたのであります。ソレから又朝に致しましても、其前夜充分に安眠をせぬ場合で有りますれば、朝は充分に寢かせて置くと云ふ有様でありますが、ソレが今小學に入ると云ふ場合になりますれば、ソレ等の点も悉く一變致しまして、朝は必ず八時までに起きて學校に往かなければならぬ。前晩は度々眠を覺ました時は、翌朝は遲くまで寢かして置いて呉れた母親が、急に朝早く起すと云ふやうな邪慳の母になる。ソレから學校に往ッた後は、幾ら遊びたくも、學科の時間内には椅子に腰を掛けて先生の授業を受けなければならぬと云ふ事になります學問のみならず總べての摸樣が一變して仕舞ひます。ソレから食物のことに致しましても、今までは……甚だ陋尾の御話で有りますが、食事の時にて總べて溫くした物を食べて居りましたのが、學校に參ると辨當か冷えて居りますから、晝飯は毎も冷食をしなければならぬ。ソレ故朝起きまするも、前夜安眠の出來なかッたにも拘らず毎朝是非とも早く起きなければならず、學校に參りました上は、一定の規則を守ッて居らなければならぬ。食物は溫い食を物べて居ッたのが、急に冷たいものを食はなければならぬ。サウ云ふやうな曾て夢にも見た事のなき束縛を受ける身になりて從て非常の變動が身体に起るので有りますから、此際にて充分御注意なさらなければならぬ時期で有ると考へます。ソレから其身体に及ぼす處の變動と云ふものは別段に害の起らないものであるか或は其

變動は、則ち身体に害を起すものであるかと云ふ事は、何人が最も其點に就て注意して居らなければならぬかと云ふに、私は御母様か、或は其慈母となる人が最も注意しなければならぬ、則ち是れは母たるものゝ義務で有らうと思ひます、ソレ故特に、此の婦人衛生會の御方々に申上げたい、所以で有るので御座います、御両親中御父様の方は、大概朝から外に出られて夕景でなければ、家に歸へられぬ御方のほうが多からうと考へる。ソレから學校に登ッてからは、誰れか其子の衛生に注意して居るかと云へば教員でありますがしかし此教員は子供の衛生上に就ては特別に注意をする者でなく、主に學業の進歩、品行上の點に就て注意して居る。ソレから學校の校長に致しましても品行等には大に注意して居りまして、子供の健康の狀態には、價値を置いて居ませぬのであります。ソレ故子供の衛生上に就ては、學校は左のみ頼みにする處でない、サウすれば、御両親中、御父様の方は前に申す如く、終日家に居られませぬから、子供の事を注意することは出來ず、學校の教員も注意する事は出來ず、然らば朝學校に參りまして午後二時三時まで家に歸らぬ間は健康上に就て注意する人が無い。幸に子供自身で言へば兎も角、言はなければ何處か惡るいところが有ッても知れませぬ。ソレから學校から歸ッて來てから、親しく注意するのは御母様より外にないと思ひます。ソレ故一般子供の事に就て明るく且つ親切に御承知の有るのは御母様だらうと思ひます。實際御母様は子供の養育に就て充分御注意なさらなければならぬと云ふ大任を抱いて居らるゝものと思ひま

す。サウ云ふ譯でありまするから、何卒充分なる御注意あらむ事を冀望するので有ります。ソレで、ドウ云ふ處に注意しなければならぬかと云ふ事を申しまするには、先づ最初に學校の時間の事から申して置かなければならぬ。現今の學校時間と申しまするものは、元より夏冬に因て一定して居りませぬ。亦其等級に因て一定しませぬが少くも一週に廿四時間位ゐは有らうと思ひます。獨逸などに於きましては、極く最下等則ち尋常小學の一年級位ゐは二十時から二十二時位ゐで有りますが、毎日大抵三時間少し強になッて居ります。其二十時乃至二十二時間でさへも、歐羅巴の方では多きに過ぎると云ふ事を言ッて居るのです。幼年の子供にしては負擔が重い、若し出來るなれば少なくしなければならぬと云ふ事を唱えて居る。

然るにソレよりも現今我邦で遣ッて居る學科時間は多くとも少なくはないと思はれます。サウして見まするど云ふと、ドの樣に考へましても、學校の時間は、六歳七歳の小兒には輕き時間では無くして、餘程重荷でありますから、此重荷が果して小兒の堪えらるゝものであるか、如何かと云ふ事を充分に注目しなければならぬ。然るに其御注意の點と云ふものは私共の考へて居りまする點とは反對になッて居る事が往々御座います。ソレはドウ云ふ事で有るかと申しますれば、或は學校に通學致して居りまする時間の外に、更に讀本とか算術とかを、三十分とか一時間とか定めて、教員の宅になり、或は然るべき人の家に復習に遣るとか、又は他に習はせに遣らなければ、御家の書生に習ふと云ふ樣な事をなさる、又御孃樣なれば、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

御琴の稽古に被入るとか云ふ事をおさる方が、往々世間に少なくない様に思はれる。私が先刻申しました通り、二十三四時間でさへも多過ぎると云ふ位ゐでありまするのに、御両親の方の御考へでは成るべく學問の進歩を補けて、學校でも能く樂に覺える様に、明日の學科を今日から覺えさせましたり、或は前日の復習を致させまして、勉强の時間を増すと云ふやうな事になつて居るので有りますが、ソレは大へんに考ふべき事でありまして、果してソレだけの事は、其御子様の長く堪えらるゝ事であるかないかと云ふ事を、充分に御注意なすッた上でなければ、容易に實行せられぬ事で有らうと思ひます。何故なれば學校の方で習うたばかりでは、子供が充分に了解しないから、十分子供の理解するやうに、學校の外に家で又勉强させると云ふは、鳥渡考へまするると、大層に適當の事の様に考へられますが、抑も學校で敎へる事を充分に理解せぬと云ふのは、則ち其學校で敎ふる事は或は其人に取ッては、少しく負擔が重すぎて、無理で有るのでそれ故に覺へがたいのではあるまいかと云ふ事を御考へにならなければならぬと思ひます。然るに理解せぬからと云ッて、又家で復習て遣ると云ふのは、或は過を重ぬると云事に當りはせぬかと思ひます。つまり、弱い者に重荷を負して、ソレが負ふ事が出來ぬからと云ッて、家に歸ッてから、其上更に四斗俵なり五斗俵なりを負ふ稽古をさせると云ような譯で、元來其人に負へるものであるか否かと云ふ事を考へて、學校の負擔を輕减して、充分に身體を丈夫にして、然る後負はして見ると云ふやうな方法にしなければ

あらぬと思ひます、唯初めから負へぬからと云ッて、其上更に又負ふ稽古をさせると云ふのは、甚だ危險の方法で、ソレが爲め種々の弊害を起すであらうと思ひます。

其弊害とはドウ云ふ事で有るかと申しますれば、次に申上げます樣な狀態に陷るのであります。病院に御出になりまする御子樣はドウ云ふ樣な容体で御出になるかと申しまするに、是れまで、外觀健康の御子樣で、能く遊び、少しも他の子供と異ッた處もなかッた子供が、學校に這入ッてから、凡そ半年或は一年、一年半位い經つと、賞めて言へば穩かしくある、少し惡く申せば沈鬱する樣な風になッて、原來活潑に遊ばなければならぬ子供が、室内に閉ち籠ッて、書物でも讀むと云ふ樣な狀態になッて、活潑の擧動は少しもせぬ樣になります。からだも肥滿して居ッたものも瘦せて仕舞う樣になり、顏色は惡るく、血の氣の少ないやうな風になる、食物も是れで、止めなければ、何時までも食べて居ッたものが、大へんに減ずるやうになります。ソレから一ッ事を始めても、長く續ける事が出來ずして、物に倦み易くなッて少し叱られても直ぐ泣くと云ふ樣になる。先づサウ云ふやうな狀態になッて來ますると、始めて御兩親の方では所謂勞症と云へるものゝ下地でも無からうかと云ふので、病院の方に連れて來らるゝ方が多く御座います。ソレから其御病人の診察しまするると云ふと、別段に御兩親の恐れて居らるゝ勞症の樣な事はないので、唯取摘んで申しますると、貧血と、そして神經の衰弱と云ふだけの二ッの容体で有ります。神經の衰弱とソレから貧血と云ふも

のは殊に小學中學の書生に多くありまして所謂學校病と唱ゐるもの丶一にあるので有ります。ソレで取り摘んで申しまするど、余り御寵愛過ぎてサウ云ふ樣な結果を得たのでからだも強くして學校の成績も好くしやうと云ふ御考へで大分御注意なされた結果が身體神經共に弱くなり、遂には他の子供と同じ樣に授業を受ける事も出來ないと云ふやうな狀態になるので、或は勞症の下地では無からうかと云ふ樣になるのであります。サウ云ふ容体の御子樣に就て御聞申しました處では殆ど九分通りて學校外の授業を受けて居られたのであります。其中には御孃樣もあり、男兒も有ッて、一樣には申されませぬが、最も私の甚だしいものと認めましたは、丁度冬の時で御座いましたが、或る處の御孃樣が、丁度家に歸らるゝのが三時頃であると

云ふから、學校の授業の終るのは二時位ゐで御座いませう其歸り掛けに琴の先生の處に寄ッて、御琴の稽古をするのに一時間も掛り家に歸ッて來ると殆ど日が暮れて仕舞う、僅か六七歲の子供が朝の九時から午后の四時まで……其間には多少運動時間もありますが、兎に角毎日ソレだけの時間を勉强の爲めに費して、遊ぶ時間はドウで有るかと云ふに、毎日四時から六時頃までの間しか活潑の遊が出來ないと云ふのは、申上げるまでもなく、無理と云ふは分り切ッて居ります。成るべく遊ぶ時間を長くして精神を勞れさせる事は、少なくしなければならぬと云ふのが、醫師の方の殆ど一定論となッて居る、獨逸の或部分に於ては、冬にせよ夏にせよ午后の授業は一切廢して仕舞ッて、敎員が連れて散步を致し、其散步の傍ら植物を取ッ

て見せたり或は雨が降りさうになれば、雨の講釋をして聞かせるとか云ふ樣に、凡て實物に就て教へる事にしまして、机の前に向ッて授業する事は午后は一切廢して仕舞ふ方が宜しいと云ふ建議まででした位ゐで有りますから、成るべく遊戲の時間を多くして、身體を運動させると云ふやうにしなければならぬので有ります。然るに我邦では唯今申上げました樣な譯で、甚だしい無理な事をさせると云ふ有樣になッて居ります。故に私は極く酷い御病人に對しては、甚だしき場合は別でありますが、大概の病人には、別に藥も上げませんで、全く授業時間の多い爲めでありますから、輕い病氣は一週間重い病氣は二週間若くは一ヶ月位ゐの間休校なさる樣に御忠告致して、其間は一切御両親の干涉しないで、放任して置かれたならば、多少快くなるで有らうと云ふ事を、毎も申上げるのであります。ソレで大概二週間乃至一ヶ月も經ッて御出でになりますると、大層に快くなッて參ります。ソコで二度目は御出でになつた時に貧血症でもあれば、其方の藥を上げますが、大概後は運動に重きを置いて、精神を安くするやうと云ふ事を申上げます。サウ云ふ工合にして、御全快になりました御方が多數で有ります。歐羅巴の方でも喧しく論じて居りまする通り、無理に授業を重くしまするのは、非常に不利益で有ると云ふ事は、私共が實驗上確かなる事で、斯う云ふ病人を治療するには、別に御藥を上げないでも、半月か一月も學校を休ませて遊ばせて置けば、直きに治ッて仕舞ふ。ソして、今まで外の子供と話もせず、遊びもしないで鬱いてばかり居ッた子供がよく遊

ぶ様になり、凡て活潑になりまして、食事も進むやうになる、是等の事實に因りましても、學校の負擔の重さを證明するには確かなる証據だらうと思ひます。

先づ大体サウ云ふ様な害を起すのでありますから、何卒學校に這入る歲、即ち學齡時に當ッては特に御母様の方で、充分に御注意をなさらなければ、非常に弊害を起す事が有らうと思ひます。ソレから、又或る方から承ればサウ云ふ害のない爲め幼稚園と云ふものを設けて在るのであるさうですが、學校に這入る前に幼稚園に這入ッて、畧は學校の規則に馴れ、漸次に學校に進むと云ふ事になッて居るのであるから、其憂ひはなからうと云ふ御考の御方も有らうと考へまするが、私の考へでは其幼稚園と云ふものが、抑々利害如何のものであるか疑ッて居ります。或は幼稚園の方法の悪るいのであるか、隨分幼稚園に御出になッても以前と御變りの無い方もあるが、幼稚園に往ッてから、からだの量方が減ッて來るとか、或は從前の様に增方が多くないと云ふ方が有るので御座います。殊に現今の幼稚園の有様は衛生上不完全な哀れなものであります。

ソレで兎も角も大事の事は述べ盡しましたが、幼年の節は自由にして居られた御子様が學齡に達して、學校に通ふ事になッてからは、一家の中で御母様となる方は、充分注意をなさるべき事で、又なさるのが義務で有らうと考へます。若し其方法を失ひますると云ふと、二十歲以上になッて充分勉强して事に堪へ忍ぶ力が薄くなると云ふ恐れが有ります。小さい時は成るべく緩にして發育の

方を充分にして置くと云ふ樣になさらぬと後日に非常な後悔をするで有らうと思ひます。皆樣も田舍の方に御出になりましたり、或は海邊山などに御出でになッて御覽になる事も有りませうが、漁夫の子供或は農家の子供などは、隨分不攝生の事を致して居りますが、東京の身分の好い人の御子樣よりもからだが強くて何事にも堪えるだらうと思ひます。雨の降る時などにも亂暴の風体で外に出て居りましたり、食物なども餘程惡るいのでありますが存外健康でソレなども詰り生れて以來麁末な取扱ひをして置かれましたので、ソレに馴れて、からだが固まッて強くなッたのが大原因で有らうと思ひます。前に述ました樣な病氣に罹られて大學病院に御出でになる方は決して少くはない、して見ると隨分世間には有る事と思はれますから、ソレで今日丹波君の代理に學齡兒の衛生談として其事を鳥渡申上げましたので有ります。

●生理學講義（第一回）

（三月二日於富士見倶樂部開婦人衛生會總會）

醫學士　坪井次郎君演説

私は當月より毎月一回此會に於て、解剖と生理との御話をすることに御約束致しました。就ては第一に解剖と生理と云ふ事はドウ云ふもので有るかと云ふことから先きに御話をしなければならむと思ひます。

解剖學とは、人并に動物の體の構造を知る處の學問で有ります。生理學は人と動物とが生活て居る道理を知る學問て有ります。解剖學は形体を知る學問で、地理を學ぶやうなもの、生理學は歷史を

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

學ぶに等きもので有ります。ソレで私は主に生理學を講義するのが目的で有りますが、ソレに就ては勿論解剖の御話もしなければならない。而して生理學の御話をするにも、元來は動物の生理の御話もしなければならむが、動物生理は暫く措いて、私は主に實際に必要なる人體生理の御話をしやうと思ひます。皆樣も御承知の通り生理學と解剖學と云ふものは、最も醫者に必要なる學問で有りまして、醫者になるものは、是非共生理學と解剖學の講義を聽き、又其書を觀て其道理を詳しく知つて居らなければ醫者になる事は出來ない。サウして見まするに、生理學と解剖學と云ものは醫者たる者の修むる學問で有ッて、醫者で無い者、殊に御婦人などが生理や解剖は知らなくッても宜からうと云ふ人が有るかも知れませんが併是れは最も誤ッた考へで有らうと思ふ。凡そ人が世上に生活して居る以上は、自分の身體の内部がドンなものから成立ッて居るかくらゐの事は、誰れしも知ッて居らなければならむ、若し是れを知らなければ甚だ不都合の事が實際有るのでございます。丁度日本に生れながら日本の地理を知らないも同じ事と思はれる。ソレでは餘り迂遠極ッた事で有ります。西京は何處に在るか、西京の名所古蹟はドンなもので有るかと云ふ位ゐのことは日本人としては知ッて居らなければなるまいと思ひます。ソレと同じく人として、人間のからだの内部に在る極く大切なる心臓或は肺臓などは大約ドウ云ふ處に有ッて、其作用は如何樣なるもので有るかと云ふことを知るのは極めて大切の事と存じます。就ては解部は恰も地理と同じて有るから、先づ第

一に解剖を知ッて、而して後生理學を講究するのが順序で有らうと思ひます。何故人が生理を知らなければならぬかと云ふに、身体中に血液の運行して居る道理、或は我々が日々取る處の食物がからだの中でドウ云ふ風に消化するか、又咽喉が乾くとか或は空腹を感ずるとか云ふには皆道理が有る、ソレから悲しければ泣き、嬉しければ笑ふのもなんでもない様に思ッて居るのですが、一々生理學上の道理が有るのでありますから、生理學の講義をして是等の事を知ると云ふのは、随分愉快なことゝ思ひます。デ私が前申上げました通りに、生理學或は解剖學の講義をしまずると、ソレで皆様をば私が物識りにおさせ申す様で有る、併し私の目的は決して皆様を有識者にするのが趣意ではない。無論有識者になるのは大切の事ではあるが、實際に迂いことを餘り廣く知ッても左程必要はない。併ながら解剖と生理とを充分に御了解になりますれば、今日我々の生活上に取ッて必要なる事柄が種々御解りになッて參ります。ソレはドの様なことで有るかと云ふに、日々我々の取ッて居る處の食物は、如何なる物を食べるのが身体の爲めに適當で有るか、又衣服はドウ云ふ物を着れば宜しいか、小兒を育てるにはドウしたら宜しいか、或は寒暑の凌ぎ方はドウしたら宜いか、或は毎日の運動はドウ云ふ工合にしたら宜しいもので有るか、夫等の事が生理學の研究に因て自然に解ッて來るのでございます。其他にも解剖學と生理學を熟く御心得になつて居りますると、突然に負傷者などがあッた場合に、決して唯見殺しにする様な遺憾はない。生理學の講義に因ッて是れ

を扶ける方法が解ッて居りますから實際人を救ふことが出來ます。ソレのみならず日常諸種の病人に對する看護法と云ふものは六ケ敷いことであるが、是れも生理を御承知になつて居ると、自ら看病を適當にする事が出來る樣になります。ソレ故解剖と生理とは御婦人方と雖も是非共心得て被爲入らなければならないことであります。決して只物識りになる爲めに、御聽きになる學問では無からうと思ひます。

一体解剖と生理とは別々に御話をしなければならない、最初に解剖だけを御話して次に生理の御話をするのであるが、ソレでは時間も長く懸りまするし、殊に解剖の方は面白くないから、解剖と生理を一つに合併して御話をする積りで御座います。ソレでドウ云ふ順序に御話をするかと云ふことを鳥渡述べて置きませう。先づ第一に骨なり神經なり、耳なり鼻なり人の身体には色々の道具が有ります。其道具に就て順々に御話を仕樣と思ひます。

扨人体の解剖と云ふものは、なか／＼入り組んだものでありまして、是れを皆樣の篤と御理解になる樣に說明するのは、僅かの時間では餘程六ケ敷いことで有ります。生理の御話も口のみで僅少の時間に申上げても、隨分御了解惡い處が澤山に有らうと思ふて心配を致しました。ドウしたら一番宜からうかと種々考へて見ましたが、幸にして帝國醫科大學の諸敎室には、生理解剖に關係した種々の模型、圖などが幾らも有りますから、是れを茲に持つて參ッて、皆樣の御目に懸ける積りで有ります。サウしまするど、餘程容易に講義を致

すことが出來ます唯御話しても御解り惡いと思ひますから、品物を持ッて參ッて御目に懸けます。けれども生首や血だらけの物は持ッて參らぬつもりでございます……右述べましたる摸型及圖は何かと云ふに、紙細工の物、或は陶器細工の物、或は臘細工の物、若くは采色した處の圖などで、皆何れも奇麗な物ばかりで有ります。其他に尙ほ顯微鏡を持ッて參ッて、實物を顯微鏡に掛けて御目に懸けるやうに致します。百聞は一見に如かずと申して唯御話をするよりも品物を御目に懸ければ其方が宜しいに違ひないからうと思ひます。一回の講義に一時間か乃至一時間半位ゐは御話をしなければならないとおもひます而して解剖と生理を講じ終る迄には、一年半位ゐはかゝらうと思ひます。

今日から直ちに骨とか、或は消化器とか或は神經などの御話を致すことは出來ませぬ。何故なれば、其前に人の身体と云ふものは、ドウ云ふものから出來て居るかと云ふことを申して置かなければならない。例之ば西洋の家屋は煉瓦石から出來て居り、日本の家屋は木材を以て造らるゝとか、ドウ云ふもので出來て居るかと云ふことを、一番先きに知ッて居らなければならない。素より鳥渡圖を看ても解ります通り、人間のからだの中と云ふものは、骨から成立て居る處もあり、或は筋肉に因て組織せらるゝ處もあり、或は神經から出來て居る處も有り、或は脂肪から出來て居る處も有ります。然れども是等は、其原を質すと悉く仝じ物から出來て居るので有ります。乃ち人の身体は何れの部分を論せず、極く細かな球から成立ッて居る。

言を代ゆれは人の身体を極く細かに分析すると、小さな南京珠の樣なものから成立ッて居ります。其極く細かな球を名けて細胞と云ふので有ります。此細胞と云ふものは肉眼では觀ることが出來ない、無論顯微鏡の力を藉りて看なければならない。此細胞と云ふものは護謨の球の如く或は檻柑の樣な形狀のものがあります、人の身体は頭の先から足の爪に至る迄、皆細胞から成立ッて居るので有ります。併其形狀と云ふものは場所に依て大へんに違ひの有るものであッて、何處の部分でも恐く圓い球から成立ッて居るとは云へない。場處に因て細胞の形狀がソレ〲違ッて居ります。細胞が幾つも重なッて壓れるときは圓い形を爲して居ることが出來ないで四角になることが有ります。或は又四方八方から壓れると、恰も繪に書いた城の石崖の樣な形狀になッて居るのもある。ソレばかりでなく細胞が長くなッて居ることも有ります。或は細胞から角が生へて枝の樣になッて居るのもあります。斯くの如く細胞は種々の形狀を爲して居る。是等は骨だとか筋の御話する中に御解りになるから實物を御目に懸けるやうに致しませう。

細胞と云ふものは斯樣に形狀の異ッて居るのみならす、細胞には種々なる色が着いて居ります。我々の毛髮はドウして黑いので有るかと云ふに、乃ち細胞の中に黑い色素を含んで居るので、斯くの如く毛が黑く見へるのでございます。或は細胞に赤い色の着いて居るのであります、是れも矢張り細胞の中に赤い色素が這入ッて居る故であります。乃ち我々の身体の中を循環して居る血液の赤色な

るは其中に浮んで居る細胞(血球)が赤色の色素の含んで居るからであります。故に細胞と云ふものは、元來圓い形の物であるが、場所に因て或は細長く、或は四角或は三角と云ふやうに形狀が一定しない。而して又種々なる色素を含んで居ッて、或は赤く或は黑きものが有ります。以上申上げました所が即ち細胞の解剖で有る、是れを先づ第一に知ッて居らなければならぬ。次に細胞の生理を述べます。

細胞は前に述ぶる如く、人の身體の基礎を成して居るもので有りまして、人が生活して居りまする間は、此細胞が斷えず働いて居るので有ります。人の生活て居るのには極く小なる百万千万の細胞が各役目を爲して働いて居るのである、若しも細胞が働かないと人は活きて居ることが出來ないので有ります。故に生命の宿ッて居る處は何處で有るかと云ふに、則ち全身の細胞中に宿ッて居るので有ります。一体細胞の御話は餘程六ヶ敷いので有りますから、漸々に各系統の御話をするときに細胞の事を特別に御話する積りで有りますから、其時能く御了解にならうと思ひます。唯今日は人の身体は極く細かなる細胞から出來て居ッて、而して其細胞は始終作用いて居る、人の生活して居るには、細胞の作用が實に缺くべからざるもので有ると云ふことを述ぶるに止めて置ます。細胞は身体中に群を爲して始めて作用を表はすもので有ります。一ッ處に全じ性質の細胞が集合して居るのであります。譬へば神經のある處には神經の細胞が聚ッて居ります。血液のある處には血液の細胞があります。斯く細胞が一つの道具に聚合て居

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

りまするど、是れを名けて組織と云ひます。身體の組織と云ふことは素織物に例へたものであツて恰も細胞は糸の樣なものである。糸が集ツて織物が出來細胞が聚ツて神經、或は骨、筋等の組織が出來るのであります。故に此組織と云ふものは、織物と全じ樣に思ツて宜しいので御座います。モウ一つ組織の織物に似て居る所があります。御承知の通り織物は木綿でも、絹布でも、色々なる染料で之を染めることが出來ます。ソレと全じ樣に我々のからだの細胞から出來て居る組織も色々の色素を以て染めることが出來ます。神經なり筋なり、或は其他の物も極く薄く切りまして、色素の中に入れると、自由に染めることが出來ます。而して顯微鏡に掛けて見ますると、誠に奇麗に美しく見へ、恰も美麗なる織物を見る如くであります。寧ろ尋常の織物などよりは、奇麗に見ゆるのが幾らもあります。而して此組織を種々なる色素に染めて見ると云ふことは、今日醫學上最も大切の事であるのでございます。ソレでありまするから、生涯組織を染める事ばかり研究して居る學者が歐羅巴にも日本にも幾らもあります。

此組織を染める事のみに從事して居る學者を指して染工屋の誰某と呼ぶ位ゐであります。ソして其人の染めた物は、他の人の到底及ばない程に巧みに染まります。斯くの如く人の身体と云ふものは細胞から成立ち、細胞から組織と云ふ人の身體の織物が出來て居ります。サウして見まするど、人の身体は細胞から成立ツて居ると云つても宜しう御座います、又或は言葉を換へて見ますれば、人の身体は組織から成立ツて居ると云つても宜しい

今日述べましたる處は總論でありまして、唯生理學と解剖學とはドウ云ふものであるかと云ふことを御話致し、人の身体は細胞から成立ち、細胞が聚ッて組織が組み立てらるゝものであると云ふことを述べましたのみであります。次回からは各論に移るでありませう

衛生叢談

◉傳染病研究所の參觀

傳染病研究所に於ては昨春新築落成以來事業漸く整頓せしを以て去月三日午前十時より貴衆兩議員及新聞記者等を招待して所内の摸樣を一覽に供し所長北里博士は來賓を研究室及動物室に案內し研究室に於ては數十臺の顯微鏡に照置したる各種の黴菌及其他の器械標本に就て研究の方法を說明し動物室に於ては免疫法、實扶垤利亞治療用血清製造法等を說明したり又病室、消毒室等は助手の人々交々說明したるにより來觀者は何れも滿足を表して退所せられたる由當日の來觀者は無慮二百餘名にして爾後貴衆兩院の議員を介して參觀を乞ふ者日々絕へざるの有樣なり尙當日各來觀者には傳染病研究所一覽一册づゝ配付されたり

○傳染病研究所の事業成績

前項の傳染病研究所一覽中に記載せる所長北里博士の報告に係る同所創設以來の事業成績を抄錄すれば左の如し

本所は明治二十五年十一月三十日の開所と同時に其事業に着手し爾來今日に至るまで目的を完成したる者若くは將に完成せんとする者鮮しとせず今

詳細に之を掲記せんか數部の專門書立ろに成るあらん故に茲には唯要領を摘錄して本所業績の梗概を閲覽に供すべし而して文中多少の術語を挿用するは勢の免かれざる處あるが故に豫め其二三を說明すること左の如し

此報告に謂ふ所の傳染病　とは法律所定の六種傳染病のみを意味するにあらず六種傳染病は虎列刺、腸窒扶私、赤痢、實布的里亞、發疹窒扶私痘瘡なれども茲には肺結核、肺炎、癩病、黴毒、痲病、丹毒の類をも總稱するあり但し本所附屬の病室には虎列刺、發疹窒扶私、痘瘡の患者を收容せずと雖其原因豫防治法等は均しく研究の物件に屬す

豫防接種法或は豫防注射法　と稱するは黴菌學上特種の方法に依りて製出したる物質を人體若くは動物體に注射し又は接種して人畜をして一定の疾病を免かれしむるの方法を云ふ例之ば種痘法によりて痘瘡を豫防するが如き是なり次項說く處の免疫法と其義略ぼ相同じ

人工免疫法　とは一定の方法を以て黴菌學的生產物を人躰又は動物躰に注射し夫をして一定の疾病に對する感受力を失はしむるの方法を云ふ

天然免疫と　は生來或る疾病に罹らざる者を云ふ例之は牛馬の虎列刺病に罹らざるが如き是なり又人類中にも天然免疫を具ふる者あり例之ば甲乙均しく虎列刺病菌含有の水を飲むも甲は之に罹り乙は之を免るゝが如き乙は即ち天然の免疫を具ふる者とす（但し胃の關係等もあれば一概に斯く云ふべきにあらざれども茲には一例として擧げたるのみ）

黴菌學的治療法　とは普通醫藥を以て治療するの謂にあらずして主として黴菌學的生産物を注射するを云ふ例之ばツベルクリン療法、血清療法等の如し故に豫防法と云ひ免疫法と云ひ治療法と云ふも黴菌學上に於ては殆ど同義異辭たるを知るべし

血清療法　とは天然免疫を有せざる動物に病毒を注射して人工免疫となし其血液より血清と稱する澄明液を折出して之を患者に注射するを云ふ今實布垤利亞病に就て其一斑を說明せんに羊、馬、犬等は實布垤利亞に對して天然の免疫を有せず故に此類の動物に無造作に病毒を注射し又は接種する時は忽ち實布垤利亞症に罹りて斃死するを免がれずと雖一定の法を以て病毒を減弱し最初は其弱き病毒の極少量を注射し次第々く々に增量する時は三四個月の後は如何に强力なる病毒の大量を注入するも動物は些少の患害を蒙むることなきに至るべし即ち其動物は人工に免疫したる者なり斯の如く人工免疫となりたる動物の血清は之を人體又は動物體に注射する時は正確に實布垤利亞病を豫防するのみならず既に病に罹りたる者と雖時日遷延して病症危篤に陷りたる者の外は盡く回春の奇効を奏せざるはなし目下血清の供給所は本所の外獨逸國に二個所、佛蘭西國に一個所あり佛國は國立の制を取り獨逸國は私立商社に放任す而して獨逸の甲は學友ベーリング氏之を監督し乙は某氏之を整理す然るに乙は不良の血清を供給したるの故を以て發賣頒布を停止せられたりと云ふ、頃日獨逸は委員を佛國に派して全國に於ける國立血清

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

供給所の現狀を視察せしむるの報あり又血清療法は獨、佛、英、米を始め到る處に學者の歡迎を受けつゝあり他年一日血清療法の範圍を擴張して之を諸他の傳染病に應用するの時運に際會すべきや疑なし

注射法　とは黴菌學的生產物を皮下又は腹腔等に注射するの法なり

接種法　とは黴菌等を皮下に種ゆるの法なり

以下順次各病に關する業績を列記すべし

（一）恙蟲病

余は內務大臣の依囑に應じ助手以下を率て明治二十六年八月十日東京を發し新潟に向ひ仝縣中蒲原郡新關村なる假設研究塲に於て本病の調査に從事し仝年九月三日を以て歸京したり今研究の成績を概括一言すれば本病は一種の傳染病にして特種のプラスモチェン之が病原となり血中特に赤血球中に寄生すプラスモチエンは一種動物性の微小體にして黴菌と其類全じからず然るに此物に關する研究は刻下未だ充分なる發達を遂げざるが故に黴菌の如く之を培養すること能はずと雖も動物試驗其他に據りて其病原たることは毫末も疑を容れず詳細は曩に頒布したる恙蟲病原調査報告書中に在り

（二）ペスト病

昨年晩春の候淸國香港に於てペスト病の猖獗を逞ふするや政府は青山醫學博士及余を取調委員となし助手數名と共に仝地に派遣したり而して病原探究の事は主として余の擔任する處なりし、一行は仝年六月五日東京を發し仝月十二日香港に着し十四日より研究に着手して余は即日ペスト菌を發見

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

し十八日に至りて其病原たることを確認したり當時の狀況は今尙世人の記臆に存する處にして玆に之を反覆記載するの要なし研究の方法、黴菌の性狀等は亦曩に頒布したるペスト病原因調査第一報告書中に詳なり

爾來引續き該菌の性質及免疫法等を調査したるに免疫法は充分囑望の價値あり此研究にして完成せん乎ペストの流行敢て恐るゝに足らざるなり他日尙第二報告を以て其詳細を公にすべし

以上二種の病原は本所設立の後新に發見したる處に係る

（三）　實布垤利亞

本病の病原菌は明治十九年獨逸人リヨフレル氏の發見する處なり余は獨逸留學の日仝國人ベーリング氏と共に免疫法を研究せんと欲し余は專ら破傷風菌に就てベーリンク氏は專ら實布垤利亞菌に就て仝一の方法を以て仝時に試驗に着手したり其結果は非常に良好なる者にして遂に今日の血淸療法なるものを創始することを得たり

本所開設の後三頭の羊に人工免疫法を施したりしに其二頭は不幸にして他病の爲めに斃死し今日に生存する者は僅に一頭に過ぎず畢竟新築移轉前動物室の完全ならざりし爲めならん

目下馬二頭、羊七頭、犬二頭に免疫法を施しつゝあるが故に兩三月を出でずして血淸の供給稍々充足するを得べし然れども廣く全國に向て之が供給をなさんには少くも年々二十頭の馬を免疫するにあらざれば需要に應ずること能はざるべし

昨年十一月以來附屬病室に於て治療したる實布垤里亞患者は合計十九人にして內全治十五人、死亡

二人、治療中二人あり即ち患者百人中全治する者八十八人强死亡する者十一人强の比例あり然るに右患者中三名は果して眞性實布垤里亞なりしや否少しく疑なき能はざるを以て之を控除し又死亡者中の一人は入室の際頗る危篤に陷り僅に三時間を經て死亡したる者にして血清の効能を顯すの暇なきこと勿論なるが故に之を控除する時は全治者十二人に付死亡一人の割合となる即ち患者百人中全治者九十一人弱、死亡者八人强の割合なり

本病の患者に血清療法を施す時は早きは六時間、遲きは二十四時間にして躰温下降し呼吸脈搏緩徐となり局處の症狀亦從て輕快するは普通の療法に異なるの點にして發病後二日以內の者に在ては病症の輕劇に論なく必ず全治するを得るも亦此療法の特性なりとす

抑々實布垤里亞には流行の季節あり春冬に多く夏秋に稀なり都下の如き一旦流行の勢を逞ふするに於ては續々數十の患兒を出すこと少しとせす此時に際し廣大なる病室を有して患兒の收容に便し血清の給供を裕にして其治療に便ずるにあらざれば天職を曠廢するの譏を免かるゝ能はず而して目下此等の設備を缺くは余の深く痛嘆する處なり

尙一言すべきことあり血清療法は即ち人工免疫法なるが故に血清を健兒に注入する時は一定時期の間、實布垤里亞に感染するの虞あることなく注射の際已に病毒體內に潛伏したる者と雖極めて輕症に經過するを常とす患家の小兒に豫防注射法を行ひたる者凡て二十三人內二人は日ならず發病したるも孰れも輕症にして殆ど醫治を要せざりし

（四）肺結核

結核の原因は明治十五年獨逸人古弗氏の創見にして其療法も亦仝氏が明治二十三年に公にしたる所とす治療法は即ち結核黴菌の產出物より調製したる者にして之をツベルクリンと云ふ抑々結核病治療の至難なるは普く世の知る通にして本病に向て適當にツベルクリンを應用するは更に一層至難の業なりとす夫れツベルクリン注射法は即ち黴菌學的療法なり之を行ふに黴菌學の知識を要するは固より論を俟たず尋常の臨牀實地家にして本劑の可否を論ずるは余未だ其可あるを知らざるなり況んや目下のツベルクリンある者は當初の者と仝一にあらず大に改良の效を奏したるに於てをや古弗氏は頃日書を余に寄せて經驗を積むに從ひツベルクリン使用の結果益々佳良となりしことを報せり

余は此言に對して仝感を表せんと欲するの意切なり本所の新築落成以來附屬病室に於て治療したる結核患者は合計百三十三人にして內三人は全く全癒して病症の痕跡を止めず喀痰中黴菌を認めざるに至り六十八人は未だ充分の健體に復せざるも大に輕快して多少の常務に服するを得るに至り轉地又は事故の爲め退室したるものは二十人、死亡は十二人にして現在患者三十人を算す

本病の治療は長日月を要するが故に患者輕快を覺ゆるに至れば多少の黴菌を喀痰中に殘留するにも拘らず退室を切望する者ありて終局の結果を見る能はざる者多きは遺憾に絕へず又重症の患者にして意外の好成績を得たる者少しとせず故に遠來重症の患者一身を捧げて來る者に於ては症狀ツベルクリン療法に適せざる者と雖之を收容したり

之を要するに結核病に對して根治的の効能を奏するものは目下ツベルクリンの他に求むべからざること余の斷言して憚らざる處なり

（五） 癩病

開所以來治療したる癩病患者は入室と通所を合して二十六人あり何れも快方に向はざるはなく就中其三名は全く全癒したり尚本病に關しては他日詳細なる報告を公にするの期あるべし

（六） 腸窒扶私

昨年二月以來治療したる腸窒扶私患者は五名にして一人の死亡者なし療法は腸窒扶斯菌の生產物を注入するに在りて解熱を速にし豫後を善良ならしむるの効あるは疑なしと雖本病の療法は尚改良の餘地あるを信ず

（七） 丹毒

丹毒患者を治療したるは三人にして何れも短時期内に其毒の全身に瀰蔓するを抑止して全癒せしめたり療法は丹毒菌の生產物を注射するにあること腸窒扶斯に異ならず

（八） 破傷風

破傷風の血清療法は余が在獨中研究したる所にして開所以來一頭の馬を免疫することに從事し今や略々免疫の域に達したり日ならずして實地に應用することを得べし

上記恙蟲病以下破傷風に至る八項は本所研究事業中の主なるものを掲記したるものにして其他の病症を併せ附屬病室開始以來今日まで治療を施したる總ての患者に就き成績を示せば左表の如し

入室患者成績表

自明治二十七年二月
至明治二十八年一月二十九日

病名	入室患者	全治退室	輕快退室	轉地又ハ事故退室	死亡	在室患者
結核症	人 一三三	人 三	人 六八	人 二〇	人 三	人 三〇
瘰癧	一〇	—	五	—	—	五
腸窒扶斯	五	四	—	—	—	一
實布垤里亞	一九	一五	—	—	二	二
梅毒	五	四	—	—	一	—
丹毒	三	三	—	—	—	—
脚氣	二	二	—	—	—	—
肺炎	二	二	—	—	—	—
感冒	一	一	—	—	—	—
肋膜炎	一	一	—	—	—	—
肉腫	一	—	—	—	一	—
ロイマチス	一	一	—	—	—	—
象皮病	一	—	一	—	—	—
單純咽喉炎	一	一	—	—	—	—
合計	一五八	三七	七四	二〇	一六	三八

其他所内の組織等に至ては別に之を記載せずと雖

助手、藥劑師、書記等の職員の外、員外助手及研究生の制を設け以て日々黴菌學の實地練習に從事せしめ居れり其研究生なるものは醫術開業免狀所有者に限り三個月を一期として講習を許すものにして昨二十七年三月以來其募集をなしたること都合四回、志願者二十人にして已に研究を卒へたるものは十三人なりといふ

●虎列剌豫防の告示

警視總監と東京府知事と連名にて去月十五日左の告示を發したり

戰時多數の軍隊を動すに當りては其隊中に種々の傳染病を發生し延きて一般に傳播し戰後尙は其流行を繼續し非常の慘害を被むるは古來歷史上其實蹟鮮からざる所なり今や淸國と交戰中金州及澎湖島等の占領地に於て虎列剌病發生し

傳播の虞あるのみならず既に客月來福岡縣下門司廣島縣下宇品に該病患者發生したるを以て何時府下に其病毒を傳播するやも計り難きに付此際特に一層の警戒を加へ各自豫防攝生を恪守し努めて虎列剌病流行の不幸に陥らざる樣深く注意すべし云々

●澎湖島虎病の原因

澎湖島コレラ病の猖獗ありしことは人の知る處なるか其初發は船中にして其基因として見るへきものは左の諸點にあるが如しといふ

一、出發以來雨天勝にして窓を鎖して群居せるを以て室内の空氣不潔を極めたる事

二、元來船に慣れざるもの多くして波動に腹を搖れ大に消化機を害したる事

三、食物の遽かに變りし事

四、氣候の急に暑くなりたる事

重なる原因は左の四にあるが如しといふ

●虎列刺病に對する注意

（某醫學博士の談）

戰爭後惡疫の流行は往々免れざる所今年の如き已に處々に發生を見るをや某醫學博士は虎列刺の豫防法注意に就て左の談を爲せり今其大略を記せば

（其一）コレラ病は傳染する病なることは已に一般の知る處なり然れども之を傳染せしむるものは如何なるものよりするかを詳知せざる可らず他なし病者の糞便及吐瀉物之れあり此中にコンマバチルスを含有して此ものにより他に傳播するものあり故に之が消毒を充分に注意すべきあり

（其二）病毒は肉眼の克く知る能はざるものな

れば病者の吐瀉物糞便は已に悉皆病毒なりと見做し必ず之れに衣類食物等は固より其他總ての物を之れに近接せしむべからず之れ如何なる機會にて排泄物の付着するとあるやも知るべからざればなり若し誤て之に觸るゝ時には忽ち傳染するあり故に疑はしきものは直に消毒すへし

(其三) 傳染は病者より直接になす事は詳知する處なるも一度コレラに罹りたる患者の輕快せしものは一般に甚だしく注意せざるものあり之れ尤も恐るべきなり故に十分健全の人とならざるよりは傳染の危險あるものなれば直に交際等を爲す可らず

(其四) コレラ毒は他より傳染するものなるとを記臆せば流行地又は流行地を通過して來りし人には容易く接近すべからず是れ情に於て實施し難きとあるも嚴に注意すべし

(其五) 生活の方法を最も整然たらしむべし攝生を嚴にし腸胃を健全ならしむべし腸胃は傳染の根源なれば之れを十分健全ならしむれば可なりヨシコレラ毒を受るも其病毒即ちバチルスをして發育せしむると能はず若し腸胃の不健康なる時は恰も肥料せる土地に種子を蒔くが如く容易に發育して其毒勢を逞ふすべし故に各人注意すべきとなり

(其六) 若し下痢等を發せる時は直に醫師の診察を受け治癒の速かなるを可とす若し之を秘するが如きとあらば遂にコレラ毒に感染し易きの恐れあり

(其七) 患者ある家にて決して飲食すると勿れ之れ如何なる場合にて病毒の混するやも計り難

けれはなり

(其八)　飲用水は必ず一度煮沸せしめたるものを用ゆるは一般に知得するとあるも尚不充分なるは食器等を洗滌するにも普通の冷水を用ゆるは大に誤れる所なり是れ俗に所謂頭かくして臀隱さずにて洗滌水と雖も必ず沸煮せざる可からず殊に水道を飲用する家に在ては最も注意すべきなり

(其九)　病者ある家には見舞等をなすべからず又多人數集會する所等は不可とす

(其十)　人若し腸胃加答兒の如きものにかゝりて下痢するか或は腹痛等ある時は意に介せずして賣藥等を用ゆるは其身を死地に陷いらしむるものあり

(其十一)　最も必要にして最も行ひ難き事なれども患者の發生せし時直に之れを如何なる事情あるにもせよ隔離するを第一とす即ち避病院等に送致すべし若し全癒なし難き場合には不得已患者をのみ殘して他の健全なる人は直に其家を去て傳染を防ぐべし

其他家屋器具の清潔空氣流通の佳良便所等は苛性石灰にて常に消毒すべし若し患者を發生する後は其消毒豫防法等には只醫師及び警官の命を遵守すべし

●大日本婦人衛生會景況

四月六日午後一時より永田町鹿鳴館に於て常集會を開く會する者凡六七十余名總裁　小松若宮御息所殿下にも御臨場在らせられ醫學士坪井次郎君の生理學解剖講義醫學士増田知正君の懷妊中の心得

に就て種々胎兒の實物若は子宮の模形等を示され懇切に演說せられしが午後五時頃一同散會せり

◉同懇親會景況

四月二十日正午より小石川植物園に於て懇親會を催せり會するもの無慮二三百名　總裁小松若宮御息所殿下にも御臨場在らせられたり當日は幸ひ好天氣なりしを以て會員は園内の散步をなし餘興には桃川如燕の快談あり次に鹿倉鋥子外數名の仕合及劍舞等ありしが特に故山岡鉄舟君令孃の仕合及劍舞の如きは人をして感嘆措く能はざらしめたりき右終り一同隨意に園内の散步をなし午後四時過る頃より散會せり

廣告

◉四月より五月に至る入會者左の如し

◉地方會員中野悅子の紹介により

新潟市寄居町二番町卅四番地　通常會員　志村ちへ子
新潟市旭町通一番町十六番地　通常會員　保倉せい子
新潟旭町通一番町二十九番地　通常會員　坂本いち子
新潟縣中蒲原郡萩野村字市ノ瀨　通常會員　本間よね子
新潟縣北蒲原郡新發田東町　通常會員　市島なつ子
新潟市古町通三番町　通常會員　石黑とう子
新潟市上旭町通一番町南山　通常會員　小柴菊子
新潟市寄居町四十二番地　通常會員　高橋たゝ子

◉幹事高木こう子の紹介により

神田駿臺袋町十五番地　通常會員　新井琴子
芝西久保城山町一番地　通常會員　清浦とよ子

◉會員丹治春子の紹介により

麴町三番町三十二番地　通常會員　富田千惠子

◉幹事坪井國子の紹介により

本鄉西片町十番地ほノ十三號　通常會員　坪井なほ子
麻布霞町二番地　特別會員　金子彌壽子

◉幹事加藤常子の紹介により

廣告

◉麹町紀尾井町六番地 通常會員 石川さだ子

◉幹事西郡子の紹介により
京橋築地海軍大學校構内 通常會員 岸美代子

◉會員大澤作子の紹介により
下谷區下谷町二丁目三番地 通常會員 加藤いそ子

◉會員加藤ふみ子の紹介により
下澁谷日本赤十字社病院内 贊成員 西川金之助君
下澁谷日本赤十字社病院内 通常會員 山口初子

◉贊成員小林延之助君の紹介により
日本橋葭町 贊成員 佐竹勝兵衛君

◉幹事濱田捨子の紹介により
神田淡路町二丁目四番地 通常會員 井野うち子

◉事務所へ申込により
神田駿臺袋町十三番地 通常會員 增田文子
下谷西町製藥學校 井澤ろく子

◉會長仁禮すが子の紹介により
麹町七丁目二十番地 通常會員 橋口ちか子
芝田村町三番地 仝 東郷ゆり子
青山北町四丁目五十二番地 通常會員 落合信子
麻布狸穴町四番地 通常會員伯爵夫人 川村春子
芝愛宕下町四丁目七番地 通常會員 吉原かや子

麻布市兵衛町二丁目四十一番地 通常會員 上村きよ子
麻布霞町廿三番地 仝 内山訓子
赤坂新坂町五十五番地 仝 乃木靜子
麹町三番町十一番地 仝 裏松千代子
本郷眞砂町廿七番地 仝 兒島悦子
麹町上二番町三十九番地

通常會員 有村千代子
芝車町三十五番地 仝 鮫島峯子
芝公園地拾三號三番地 仝 湯地照子
麻布東町二拾四番地 仝 神宮司富子
麹町中六番町四拾八番地
通常會員 千田蘇茂子

轉居

轉居永田町二丁目總理大臣官舍へ 伊藤梅子
小石川駒井町二番地へ 手塚ふく子
牛込市谷仲ノ町五十番地へ 大西いく子
神田錦町一丁目二番地へ 天野群子
下六番町二十三番地 福羽貞子
芝櫻川町二番地へ 宝ともを子
神戸元町四丁目六十二番地村上方へ 前川てる子
市谷仲ノ町二十二番地へ 三浦とき子

死亡

平井孝子

私立大日本婦人衛生會規則

第一條 凡本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持するの方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり

第二條 本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置く

第三條 本會の會員たらんと欲する者は身分の尊卑を問はず何人にても入會するとを得

第四條 會員たらんと欲する者は族籍住所姓名を記し本會事務所へ申込ある可し

但事務所は下谷區練塀町四十三番地に置く

第五條 本會々員を分て終身會員特別會員通常會員の三類とし共に會費金を納むる者とす

但終身會員は一時に金拾圓以上を納め特別會員は一年金二圓四拾錢以上を納め通常會員は同金壹圓二拾錢を納むる者とす尤も會員中書生及其他事故ある者は唯雜誌料として同六拾錢を納めしむ

第六條 男子にして本會の主義を贊成する者は之を贊成員とす尤も會費は本會員に同し

但本會に功勞ある者は役員の協議を以て終身贊成會員(無會費)とするとも有る可し

第七條 本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉す推戴員は皇族の御息所等に之を申請するものとす

第八條 本會は左の役員を置く 會長一名 副會長一名 幹事七名 評議員二十名 書記若干名

第九條 會長副會長及幹事評議員は會員の投票を以て之を撰擧し書記は幹事の推撰により會長之を命ず

但書記は都合により會員外の婦人又は男子に托するとあるべし

第十條 會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し又は其代理をなし幹事は會長の命を受けて會務を處理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命に從て諸記錄及雜務を掌る

但幹事の分課を設けて 第一 會計 第二 編輯出版 第三 庶務とす

第十一條 會長の見込を以て右役員外に會員中より臨時に指名委員を置くとあるべし

第十二條 會長副會長及幹事評議員の任期は一年とす尤も再撰するも妨げなし

第十三條 會長副會長及幹事評議員は無給料とし書記は相當の報酬を給す

第十四條 本會の集會は七月八月を除くの外毎月一回として通常第一土曜日午後一時より之を開く

第十五條 毎會學識經驗ある者を聘し講義演說を囑し本會々員の演說と共に之を筆記して本會雜誌に揭載し毎月各一册つゝ無代價にて之を會員に頒付するものとす

但し演說の間に談話を交ゆる事あるべし

第十六條 本會々塲に會員は家族の婦女子又は知己の婦人を誘致して傍聽せしむるとを得

第十七條 講義演說の際男子の傍聽を禁ず

但會員に緣故ある男子は此限にあらず

第十八條 本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす

但些少の金額は日々の費用支出の爲め事

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治二十一年二月二十八日内務省許可

務所に引出置を得

第十九條 會計の収支は總て會計課幹事の撿印を要す

第二十條 會員又は會員外より金圓若くは書籍物品等を寄贈あるときは本會より謝状を送り且寄贈の品目及其人の姓名を本會雜誌に載せ報告するものとす

第廿一條 會費は郵便小爲替にて東京下谷郵便局へ向け振出しある可し

但不得止場合には郵便券を代用するも妨けなし尤も一割増とす

第廿二條 入會員には會員證を附與すべきに付郵便にて申込の者は郵便券二錢を添ふ可し

第廿三條 毎年三月九月の總會に於て會計の収支庶務の概略并に會員の増減等を報告す可し且規則改正の案あれば之を議定するものとす尤も議定は總て多數決とし可否半數なるときは會長之を決す

但至急規則の改正を要する事あるときは豫め會員に報して臨時に之を爲すとを得

第廿四條 毎年三月の總會に於て役員の撰擧をなすものとす

第廿五條 規則の範圍内に於て役員の評議を以て其細則を設くることを得

第廿六條 各地方にて發起者十人以上ある者は支會を設くることを得

但其規則は本會の規則に抵觸せざる樣起草し本會役員の認可を經へし

第廿七條 本會の集會場は時々報知する者とす

（以下次號）

醫科大學卒業
神田區北神保町
拾壹番地
産婆 秋間たい

明治廿八年五月一日印刷
明治廿八年五月三日發行
發行所 東京下谷區練塀町四十三番地 大日本私立婦人衛生會
編輯兼發行者 東京牛込區矢來町三番地 田中徳三郎
印刷者 同 神田區小柳町十三番地 小高良造
印刷所 同 神田旅籠町貮丁目拾一番地 廣業館

明治廿六年四月四日遞信省認可 第一金曜日發行 （定價金拾錢）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN